

校長室便り ウェブ版（紙媒体では配っていません）

令和5年度
校長室だより No.9
令和5年12月22日
発行



二 星

12月22日 冬休み前全校集会 校長挨拶

夏休みから今日まで、君たちが学校生活を送る姿から、たくさんのエネルギーと勇気をもらいました。本当にありがとう。

特に、文化祭と運動会での、まさに「倒れる寸前」まで自分の責任を全うし、やり抜こうとした姿勢には、涙が出そうなほどの感動をもらいました。

また、英語や弁論、絵画や短歌、書道 etc……、各種コンクールでたくさんの表彰がありましたね。

このようにたくさんの表彰を受けることができたのは、唐桑中学校で生活する君たちの、

日頃の頑張りの結晶とも言えます。もちろん、受賞した人の努力が第1です。しかし、その人たちが実力を存分に伸ばし、受賞するレベルまでたどりつくことができたのは、君たちが友達の頑張りを認め、その成長や成果を讃（た）え合える雰囲気だったからだと思っています。学校の雰囲気が、君たち唐桑中生全体のレベルを押し上げ、結果として

出品したり発表したりした人のレベルも高くなったことで、様々なコンクールで上位入賞できているのだろう、と私は考えてます。昨日の賞状伝達で渡した人の多さ、入賞者の多さには、感動を通り越して、ただただ驚いていました。

今、「感動」という言葉を使いました。ぜひ、君たちにも気付いてほしいことがあります。

さて、何かに取り組むとき、私たちにはけっこうな選択肢があります。

その選択肢は、ほとんど無限に近くあるのですが、簡単なところでは、



「やり抜く」「なんとなく取り組む」「何もしない」の3つでしょうか。

もちろん、「何もしない」ことがもっとも簡単です。「なんとなく取り組む」人も、言われたとおりにすればいいので、あまり難しくはない。

もっとも難しいのは、君たちが各行事で成し遂げた「やり抜く」ことです。「やり抜く」ことは、本当に苦しい。

「なにもしない」人や「なんとなく取り組む」人は、もしかすると、過去にこの「苦しい体験」のまま終わった経験があるのかもしれませんが。

やってみて、うまくいかないとき、「なんとなく取り組んでいる」人は笑って流せるけれども、一生懸命な人は笑わない。すごく辛い。投げ出したくなる。

この「投げ出したくなる」「あきらめそうになる」ときが、私たちにとっての人生における大きな壁です。

実はこの「壁」。君たちはすでに学校生活を通して体験し、学んでいるのです。

一生懸命に取り組んで、うまくいかずに苦しんで投げ出したくなくても、何度も何度も挑戦しなおして、最後までやり抜いた先に、感動が待っていたこと。

その苦しさや辛さを、友達と分かち合って楽しさに変え、励まし合い、乗り越えたことで幸せを感じる瞬間に巡り会えたこと。

そのように、だれかと苦しさや辛さを分かち合い、ともに手を取り合って目の前の困難を乗り越えようとしていくときの気持ちを「きずな」と呼ぶのだと私は思います。

明日から冬休みです。冬休みはまさに自分自身を見つめる時間のはず。自分で決める勉強時間、生活のリズム（起床や就寝）、家の手伝いやトレーニング。君たちには無限に近い選択肢がある。

やはり簡単なところでは、





「やり抜く」「なんとなく取り組む」「何もしない」
の3つでしょうか。

楽をしたいという欲求もあるでしょう。ゲームやスマホに逃げてしまいたい、何にもしたくない、投げ出したいと思う気持ちも芽生えるはずです。

でも、そんなとき、「きずな」を思い出してほしい。先生の笑顔、友達と感動を分かち合った瞬間、保護者や家族が喜んでくれた表情を。

この苦しさを感じているのは自分だけではない。

応援してくれている保護者や家族がいる。

自分は先生から支えられている。

そうやって思い出すと、「もう少しだけ頑張ってみよう」というエネルギーが湧いてくる。そのエネルギーが「きずなのちから」だと、私は考えています。まさに、昇降口に掲示してある「唐中魂～絆の力～」。君たちは自分たちでその唐中魂を育ててきた。



4月から君たちが頑張ってきた取り組みの成果、唐桑中学校で生活して心に育んできた絆の力」が、この冬休み、試されます。



失敗しても良い、くじけても良い。倒れても大丈夫。そんな君たちを支えてくれる先生や保護者がいることを、君たちは知っているはずです。

今、私の話を聞くときの君たちの目の輝きは本当にまぶしいくらいです。期待せずにはられません。有意義な冬休みになることを祈っています。